



株式会社ニチレイ

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号
☎ (03) 3248-2101 (代表)
☎ (03) 3248-2113 (財務・IR広報部 株式担当直通)

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	3月31日(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
上場証券取引所	東京・大阪
公告掲載新聞	日本経済新聞 ※決算公告は「決算情報」としてホームページに掲載いたします。 (アドレス) http://www.nichirei.co.jp/corpo/koukoku/index.html
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
〔郵便物送付先〕 〔電話お問合せ先〕	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ (03) 5213-5213 (代表)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

ご案内

1. 住所、氏名、配当金の振込先等の変更および単元未満株式の買取り、買増しにつきましては、名義書換代理人へお問合せのうえ、お手続きください。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要です。名義書換代理人に指定用紙をご請求ください。

♻️100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用
して印刷しています。



Vol.13

第87期 中間事業報告書
2004年4月1日～2004年9月30日



株式会社ニチレイ

証券コード：2871

くらしのなかに、おいしさと優しさを

Contents

株主の皆様へ	2
中間連結決算ハイライト	3
中間連結決算概要	4
中間単独決算ハイライト	9
中間単独決算概要	10
SPECIAL REPORT	11
FOCUS	13
KEY WORD	15
INTRODUCTION	16
株式の状況	17
会社概要	18

Profile

表紙絵の画家プロフィール

田頭よしたか氏
1950年山口県生まれ。武蔵野美術大学油絵科卒業。絵本作家として活動始める。主な作品に「のねずみくんのおとなりさん」、「けんたのぼうし」、猫のタビを主人公にしたシリーズなど出版物は多数。素朴なタッチで明るく表現された風景の中には、楽しい隠し絵があらわれています。

● 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。第87期中間事業報告書「HOPPE（ほっぺ）」をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当中間期の連結業績につきましては、食品卸売事業を展開する株式会社アールワイフードサービス（旧株式会社ユキワ）が、昨年の合併日以降、連結子会社から持分法適用関連会社になったことなどから、売上高および営業利益は前年同期を下回りました。中間純利益は、営業外損益や特別損益の改善により、前年同期比7.2%の増益を計上することができました。

今後、企業収益の改善や設備投資の増加により

景気が回復傾向にあるものの、食品関連業界におきましては依然として不安定な事業環境が予想されます。

ニチレイグループ各社は、自然派の食品企業グループの一員として「安全・安心」をベースに、自己を変革し常に成長し続ける企業集団の実現をめざし、「グループ中期経営計画（2004年度～2006年度）」の目標達成に向けて着実に歩み続けています。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2004年12月

グループミッション・ビジョン

ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

ビジョン【めざす姿】

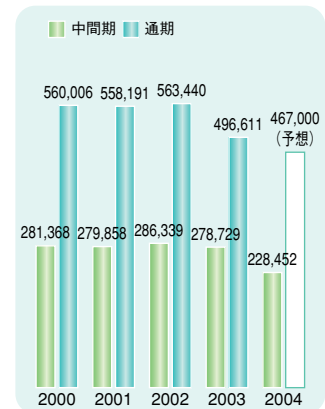
ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。



代表取締役会長 大戸武元 代表取締役社長 浦野光人

● 中間連結決算ハイライト

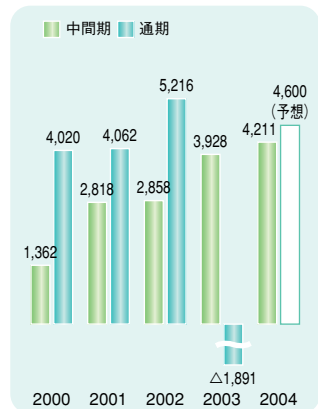
● 売上高 （年度／単位：百万円）



● 営業利益 （年度／単位：百万円）



● 当期純利益 （年度／単位：百万円）



● 株主資本 （年度／単位：百万円）



（注）連結通期予想（2004年11月2日公表）は、公表時点における情報に基づき判断されたものです。実際の業績につきましては、経営環境の変化等により記載した予想とは異なる結果になる可能性があります。

区 分	単位	2000年度中間期 (第83期)	2001年度中間期 (第84期)	2002年度中間期 (第85期)	2003年度中間期 (第86期)	2004年度中間期 (第87期)
売 上 高	百万円	281,368	279,858	286,339	278,729	228,452
営 業 利 益	百万円	11,343	6,090	9,511	8,429	7,830
経 常 利 益	百万円	9,847	4,806	7,906	7,226	7,426
中 間 純 利 益	百万円	1,362	2,818	2,858	3,928	4,211
1株当たり中間純利益	円	4.38	9.06	9.20	12.65	13.52

区 分	単位	2000年度 (第83期)	2001年度 (第84期)	2002年度 (第85期)	2003年度 (第86期)	2004年度中間期 (第87期)
総 資 産	百万円	367,770	353,385	330,703	284,700	294,435
株 主 資 本	百万円	89,395	87,649	90,666	90,176	92,073
1株当たり株主資本	円	287.58	282.00	291.46	290.38	296.65
設 備 投 資 額	百万円	9,703	9,020	7,649	5,184	2,681
有 利 子 負 債	百万円	172,704	167,439	145,394	124,388	129,058

（注）2002年度中間期から1株当たりに関する指標は、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号）および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号）を適用して算出しています。

* 第86期事業報告書（Vol. 12）の4ページおよび7ページにおいて、一部データの訂正がありましたのでお知らせいたします。
① 2004年3月期（連結）1株当たり当期純損失 （誤） 6.22円 （正） 6.28円
② 2004年3月期（連結）1株当たり株主資本 （誤） 290.43円 （正） 290.38円

● 中間連結決算概要

● 連結子会社数 69社 ● 持分法適用関連会社数 15社

当中間期は「食品卸売事業」が連結対象から外れたことから、売上高は2,284億52百万円（前年同期比18.0％の減収）となったものの、その影響額を除けば、加工食品事業や畜産事業などの売上げ増加などにより、前期比1.5％の増収を計上することができました。

利益面では、「食品卸売事業」の影響に加え、加工食品事業において鳥インフルエンザなどに起因した主要原料価格の上昇やアセロラ飲料の落込みにより採算が悪化するなど、営業利益は前年同期に比べ7.1％減益の

78億30百万円にとどまりました。営業外損益は、金融収支が改善するとともに、株式会社アールワイフードサービス（持分法適用関連会社）に係る持分法投資利益を計上したことから4億4百万円のマイナスとなりました。

経常利益74億26百万円（前年同期比2.8％の増益）から特別損益、税金費用および少数株主損益を加減した中間純利益は前年同期に比べ7.2％増益の42億11百万円となりました。

セグメント情報

当中間期 2004年4月1日から2004年9月30日まで （単位：百万円）

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	88,439	85,463	2,975
水産事業	44,792	44,941	△ 149
畜産事業	41,282	40,785	496
低温物流事業	57,765	54,810	2,954
不動産事業	5,315	1,768	3,546
その他の事業	4,278	4,058	220
計	241,873	231,829	10,044
消去または全社	(13,421)	(11,207)	(2,213)
連 結	228,452	220,621	7,830

（注）「食品卸売事業」の㈱ユキワは、2003年10月1日付で㈱リョーショクフードサービスと合併し、㈱アールワイフードサービス（合併後社名変更）となり、合併日以降連結子会社から持分法適用の関連会社となりましたので、事業区分が減少しております。

前中間期 2003年4月1日から2003年9月30日まで （単位：百万円）

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	87,127	82,944	4,183
水産事業	46,595	47,085	△ 489
畜産事業	36,974	36,328	646
低温物流事業	58,518	55,502	3,015
不動産事業	4,041	1,055	2,985
食品卸売事業	71,360	71,037	323
その他の事業	4,156	3,472	683
計	308,775	297,426	11,348
消去または全社	(30,045)	(27,126)	(2,918)
連 結	278,729	270,299	8,429

中間連結貸借対照表

区 分	当中間期 2004年9月30日現在	前 期 2004年3月31日現在
流 動 資 産	120,350	108,112
現金及び預金	3,478	3,543
受取手形及び売掛金	70,944	59,127
た な 卸 資 産	38,030	30,602
繰 延 税 金 資 産	1,417	7,779
そ の 他 の 流 動 資 産	6,791	7,354
貸 倒 引 当 金	△ 311	△ 294
固 定 資 産	174,085	176,588
有 形 固 定 資 産	123,739	126,767
建 物 及 び 構 築 物	72,645	74,862
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	16,125	16,626
土 地	33,394	33,607
建 設 仮 勘 定	17	177
その他の有形固定資産	1,557	1,493
無 形 固 定 資 産	7,435	7,915
連 結 調 整 勘 定	228	318
その他の無形固定資産	7,206	7,596
投 資 そ の 他 の 資 産	42,910	41,905
投 資 有 価 証 券	26,128	30,279
繰 延 税 金 資 産	6,236	1,414
その他の投資その他の資産	11,663	11,367
貸 倒 引 当 金	△ 1,117	△ 1,155
資 産 合 計	294,435	284,700

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 166,611百万円
2. 保証債務 4,916百万円

(単位：百万円)

区 分	当中間期 2004年9月30日現在	前 期 2004年3月31日現在
流 動 負 債	108,516	101,955
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	28,561	23,198
短 期 借 入 金	21,194	18,514
コマーシャルペーパー	9,000	10,000
長期借入金(1年以内返済)	11,472	9,575
社 債 (1 年 以 内 償 還)	10,000	10,000
未 払 費 用	18,712	18,219
未 払 法 人 税 等	1,508	2,501
そ の 他 の 流 動 負 債	8,067	9,945
固 定 負 債	93,302	92,055
社 債	35,000	35,000
長 期 借 入 金	42,392	41,299
繰 延 税 金 負 債	378	320
退 職 給 付 引 当 金	3,123	3,009
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	600	533
預 り 保 証 金	11,699	11,765
連 結 調 整 勘 定	33	44
そ の 他 の 固 定 負 債	74	83
負 債 合 計	201,819	194,010
少 数 株 主 持 分	543	513
資 本 金	30,307	30,307
資 本 剰 余 金	23,705	23,704
利 益 剰 余 金	34,759	31,525
その他有価証券評価差額金	3,676	4,890
為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 176	△ 60
自 己 株 式	△ 198	△ 191
資 本 合 計	92,073	90,176
負債、少数株主持分及び資本合計	294,435	284,700

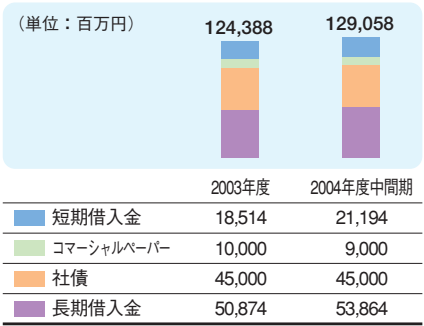
※ポイントは億円単位で、単位未満を切り捨てて表示しています。

● 貸借対照表のポイント

(括弧内は前期末比の増減)

- 流動資産1,203億円(122億円の増加)
- 受取手形及び売掛金：709億円(118億円の増加)
 - ・期間売上高の増加など季節的な要因により増加
- たな卸資産：380億円(74億円の増加)
 - ・年末需要への対応など季節的な要因により増加
 - ・豚肉はセーフガード発動に伴う事前調達により増加
- 繰延税金資産：14億円(63億円の減少)
 - ・日冷商事(株)の会社解散損失の確定に伴い一時差異が減少
- 固定資産1,740億円(25億円の減少)
- 有形固定資産：1,237億円(30億円の減少)
 - ・設備投資により26億円増加
 - ・減価償却48億円、除却・売却2億円などにより57億円減少
- 投資その他の資産：429億円(10億円の増加)
 - ・投資有価証券：261億円(41億円の減少)有利子負債削減のため流動化を進め、売却により27億円の減少
 - 株価下落に伴い時価による評価額が20億円減少
 - ・繰延税金資産：62億円(48億円の増加)日冷商事(株)の会社解散損失の確定に伴い繰越欠損金が生じたことなどにより一時差異が増加

● 有利子負債の状況



- 流動負債1,085億円(65億円の増加)
- 支払手形及び買掛金：285億円(53億円の増加)
 - ・期間売上高の増加や年末需要への対応などから仕入高が増加
- 短期借入金：211億円(26億円の増加)
- コマーシャルペーパー：90億円(10億円の減少)
- 長期借入金(1年以内返済)：114億円(18億円の増加)
 - ・返済14億円、長期借入金からの振替33億円
- 固定負債933億円(12億円の増加)
- 長期借入金：423億円(10億円の増加)
 - ・資金調達コストの低位安定化と財務の安全性の向上(固定長期適合比率の改善)を図るため、資金調達を短期資金から長期資金へシフト(44億円の長期借入を実施)
 - ・長期借入金(1年以内返済)への振替33億円
- 利益剰余金347億円(32億円の増加)
- 中間純利益42億円の増加
- 前期利益処分による配当金9億円の支払い
- その他有価証券評価差額金36億円(12億円の減少)
- 保有有価証券の売却および株価の下落などにより減少

● 有利子負債のポイント

保有株式の流動化を進めたものの、季節的要因による運転資金の増加などにより、有利子負債は前期末に比べ46億円増加しました。
なお、日冷商事(株)の会社清算に伴い長期借入金を返済したことなどにより、当中間期の金融収支はマイナス6億円で、前期に比べ2億円改善しました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

区 分	当中間期 2004年4月 1日から 2004年9月30日まで
●営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,339
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 605
●財務活動によるキャッシュ・フロー	3,880
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0
現金及び現金同等物の減少額	65
現金及び現金同等物の期首残高	3,543
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,478

● キャッシュ・フロー計算書のポイント

(括弧内は前年同期比の増減)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー33億円のマイナス(84億円の減少)
- 期間売上げの増加により売上債権は118億円の支出(前年同期比44億円の支出増加)で、たな卸資産も年末需要に対応するため76億円の支出(前年同期比39億円の支出増加)
- 減価償却費と仕入債務の合計で108億円の収入(前年同期比1億円の収入減少)
- 利息および法人税等の支払で28億円の支出(前年同期比15億円の支出減少)

投資活動によるキャッシュ・フロー

6億円のマイナス(24億円の減少)

- 有形固定資産の取得による支出31億円(前年同期比2億円の支出減少)と投資有価証券の売却による収入39億円(前年同期比18億円の収入減少)などの差引きで6億円の支出

財務活動によるキャッシュ・フロー

38億円の収入(77億円の増加)

- 当中間期では社債の償還による支出が発生せず、資金調達コストの低位安定化と財務の安全性の向上を図るため長期借入を44億円実施したことなどから、差引きで38億円の収入

以上により、当中間期末の現金及び現金同等物は34億78百万円となりました。

● 中間連結決算概要

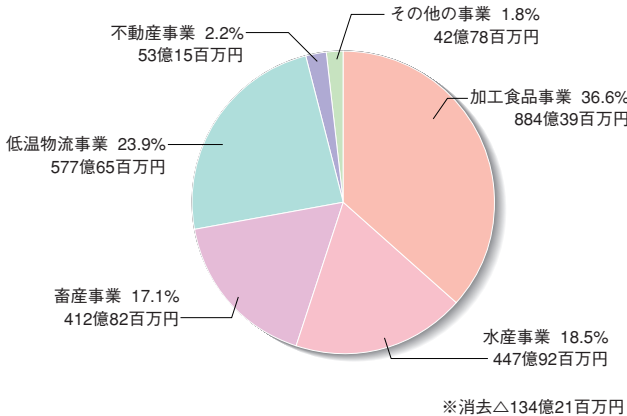
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

区 分	当中間期 2004年4月 1日から 2004年9月30日まで	前中間期 2003年4月 1日から 2003年9月30日まで
売上高	228,452	278,729
売上原価	182,848	226,064
売上総利益	45,603	52,665
販売費及び一般管理費	37,773	44,235
販売費	22,142	24,011
一般管理費	15,630	20,224
営業利益	7,830	8,429
営業外収益	1,299	891
受取利息	29	38
受取配当金	186	205
持分法による投資利益	638	—
その他の営業外収益	445	647
営業外費用	1,703	2,095
支払利息	873	1,170
持分法による投資損失	—	16
その他の営業外費用	830	907
経常利益	7,426	7,226
特別利益	1,461	1,118
固定資産売却益	102	30
投資有価証券売却益	1,192	1,023
事業所閉鎖損失戻入益	148	—
貸倒引当金戻入益	17	64
特別損失	1,064	1,143
固定資産売却損	3	19
固定資産除却損	152	230
営業権評価損	515	—
先渡契約損失	122	—
厚生年金基金脱退に伴う拠出金	119	—
事業所閉鎖損失	90	130
投資有価証券評価損	62	226
貸倒引当金繰入額	—	535
税金等調整前中間純利益	7,823	7,201
法人税、住民税及び事業税	1,502	3,431
過年度法人税等戻入額	298	—
法人税等調整額	2,425	△ 247
少数株主利益	△ 17	88
中間純利益	4,211	3,928

● セグメント別売上高構成比



中間連結剰余金計算書

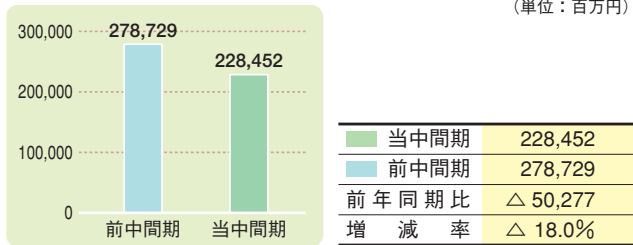
(単位：百万円)

区 分	当中間期 2004年4月 1日から 2004年9月30日まで
(資本剰余金の部)	
資本剰余金期首残高	23,704
資本剰余金増加高	0
自己株式処分差益	0
資本剰余金中間期末残高	23,705
(利益剰余金の部)	
利益剰余金期首残高	31,525
利益剰余金増加高	4,211
中間純利益	4,211
利益剰余金減少高	976
配当金	931
役員賞与	45
利益剰余金中間期末残高	34,759

※ポイントは億円単位で、単位未満を切り捨てて表示しています。

● 売上高

(単位：百万円)



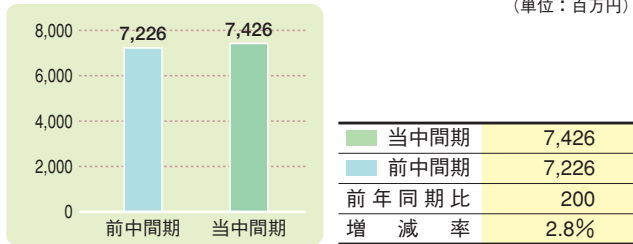
ポイント

2,284億円 (前年同期比502億円の減収)

- 「食品卸売事業」の影響を除けば前年同期比33億円（1.5％）の増収
○畜産事業は鳥インフルエンザの影響があったものの、豚肉・牛肉の売上げの伸長により増収
○加工食品事業は、食肉加工品・米飯類・中華惣菜などが好調に推移したことや、7月以降チキン加工品の売上げ回復もあり増収
○不動産事業は増収、水産事業、低温物流事業は減収

● 経常利益

(単位：百万円)



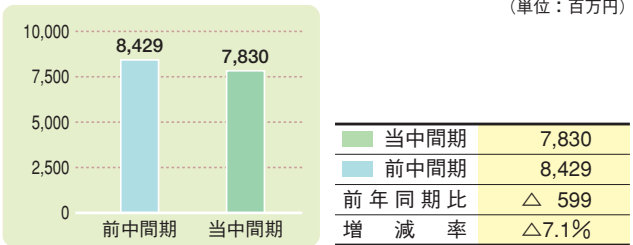
ポイント

74億円 (前年同期比2億円の増益)

- 営業外損益 △4億円
・金融収支 △6億円
日冷商事(株)の会社清算に伴い、長期借入金を返済したことなどにより2億円改善
・持分法投資利益 6億円
(株)オールワイフードサービスが持分法適用関連会社となったことにより4億円増加

● 営業利益

(単位：百万円)



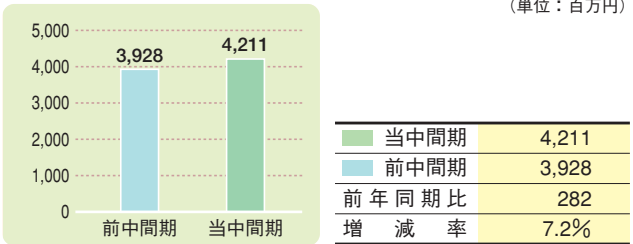
ポイント

78億円 (前年同期比5億円の減益)

- 「食品卸売事業」の影響を除けば前年同期比3億円（3.9％）の減益
○加工食品事業は鳥インフルエンザ・BSEの影響による主要原料価格の上昇やアセロラの落込みなどにより減益
○不動産事業は土地売却などにより増益
○売上原価：1,828億円（前年同期比432億円減少）
・(株)ユキワの影響などから売上原価率が1.1％低下
○販売費：221億円（前年同期比18億円減少）
・(株)ユキワの影響を除けば前年同期比8億円増加
・ブランド戦略の相乗効果を狙いとした販売促進費を積極的に投入
○一般管理費：156億円（前年同期比45億円減少）
・(株)ユキワの影響を除けば前年同期比19億円減少
・退職給付費用数理計算上の差異償却の減少や、低温物流事業の分社化効果などにより人件費が(株)ユキワの影響を除いて14億円減少

● 中間純利益

(単位：百万円)



ポイント

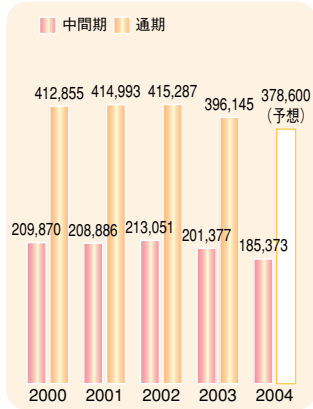
42億円 (前年同期比2億円の増益)

- 特別利益 14億円
・有利子負債の削減を目的とした株式の流動化により投資有価証券売却益11億円を計上
・前期に計上した連結子会社の解散等に伴う損失見込額の減少により事業所閉鎖損失戻入益1億円を計上
○特別損失 10億円
・Tengu Company, Inc.（米国子会社）において所在地国の会計基準に基づき営業権評価損5億円を計上

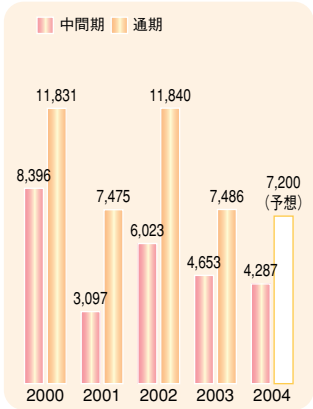
● 中間単独決算ハイライト

中間配当金は1株につき3円とし、2004年12月3日を
支払開始日とさせていただきます。

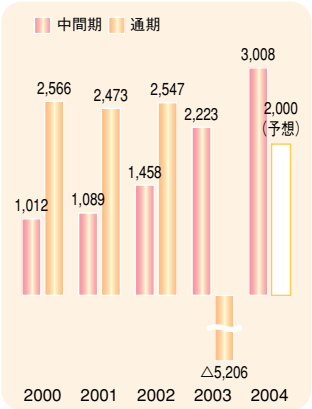
● 売上高（年度／単位：百万円）



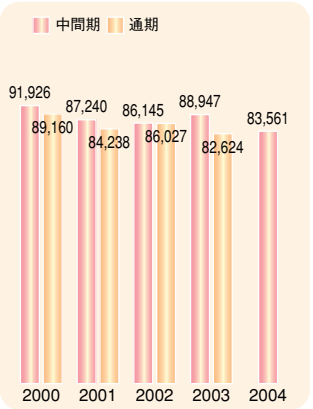
● 営業利益（年度／単位：百万円）



● 当期純利益（年度／単位：百万円）



● 株主資本（年度／単位：百万円）



（注）単独通期予想（2004年11月2日公表）は、公表時点における情報に基づき判断されたものです。実際の業績につきましては、経営環境の変化等により記載した予想とは異なる結果になる可能性があります。

区 分	単位	2000年度中間期 （第83期）	2001年度中間期 （第84期）	2002年度中間期 （第85期）	2003年度中間期 （第86期）	2004年度中間期 （第87期）
売 上 高	百万円	209,870	208,886	213,051	201,377	185,373
営 業 利 益	百万円	8,396	3,097	6,023	4,653	4,287
経 常 利 益	百万円	8,071	3,130	5,385	4,760	4,467
中 間 純 利 益	百万円	1,012	1,089	1,458	2,223	3,008
1株当たり中間純利益	円	3.25	3.50	4.69	7.16	9.69

区 分	単位	2000年度 （第83期）	2001年度 （第84期）	2002年度 （第85期）	2003年度 （第86期）	2004年度中間期 （第87期）
総 資 産	百万円	270,743	273,597	261,784	256,982	270,503
株 主 資 本	百万円	89,160	84,238	86,027	82,624	83,561
1株当たり株主資本	円	286.82	271.02	276.77	266.13	269.16
設 備 投 資 額	百万円	5,020	5,936	5,202	3,246	1,364
有 利 子 負 債	百万円	104,953	116,203	104,593	110,238	117,089

（注）1. 2001年度中間期から1株当たり当期純利益および1株当たり株主資本は、自己株式を控除して算出しています。
2. 2002年度中間期から1株当たりに関する指標は、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号）および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号）を適用して算出しています。

● 中間単独決算概要

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間単独貸借対照表

（単位：百万円）

区 分	当中間期 2004年9月30日現在	前 期 2004年3月31日現在
流 動 資 産	110,843	98,540
現金及び預金	1,685	1,226
受取手形	978	1,019
売掛金	57,369	51,399
たな卸資産	33,634	25,597
繰延税金資産	453	7,080
短期貸付金	11,432	8,064
その他の流動資産	5,578	6,072
貸倒引当金	△ 289	△ 1,920
固 定 資 産	159,660	158,442
有形固定資産	88,456	91,153
無形固定資産	4,793	5,589
投資その他の資産	66,411	61,700
資 産 合 計	270,503	256,982
流 動 負 債	97,258	91,001
支払手形	27	40
買掛金	32,333	26,763
短期借入金	17,261	13,003
コマーシャルペーパー	9,000	10,000
未払費用	11,579	12,897
関係会社清算損失引当金	—	274
その他の流動負債	27,055	28,022
固 定 負 債	89,684	83,357
社 債	35,000	35,000
長期借入金	36,728	35,002
退職給付引当金	686	506
役員退職慰労引当金	437	401
預り保証金	16,831	12,446
負 債 合 計	186,942	174,358
資 本 金	30,307	30,307
資 本 剰 余 金	23,705	23,704
資本準備金	7,604	7,604
その他資本剰余金	16,100	16,100
利 益 剰 余 金	26,577	24,500
利益準備金	39	39
任意積立金	21,491	28,598
中間（当期）未処分利益	5,047	△ 4,137
その他有価証券評価差額金	3,117	4,250
自 己 株 式	△ 146	△ 139
資 本 合 計	83,561	82,624
負 債 ・ 資 本 合 計	270,503	256,982

（注）1. 有形固定資産の減価償却累計額 123,933百万円
2. 保証債務 14,401百万円

中間単独損益計算書

（単位：百万円）

区 分	当中間期 2004年4月 1日から 2004年9月30日まで	前中間期 2003年4月 1日から 2003年9月30日まで
売 上 高	185,373	201,377
売 上 原 価	148,034	162,523
売 上 総 利 益	37,339	38,854
販売費及び一般管理費	33,051	34,201
販 売 費	20,957	20,259
一 般 管 理 費	12,093	13,941
営 業 利 益	4,287	4,653
営 業 外 収 益	1,162	1,363
受取利息	171	97
受取配当金	771	919
その他の営業外収益	219	346
営 業 外 費 用	981	1,256
支払利息	360	240
社 債 利 息	280	337
コマーシャルペーパー利息	0	1
貸倒引当金繰入額	9	97
その他の営業外費用	330	579
経 常 利 益	4,467	4,760
特 別 利 益	1,348	1,052
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	1,192	1,021
貸倒引当金戻入益	155	30
特 別 損 失	252	2,297
固定資産売却損	0	5
固定資産除却損	67	196
先 渡 契 約 損 失	122	—
投資有価証券評価損	62	677
貸倒引当金繰入額	—	765
投資損失引当金繰入額	—	490
事業所閉鎖損失	—	130
債務保証損失引当金繰入額	—	31
税 引 前 中 間 純 利 益	5,564	3,515
法人税、住民税及び事業税	22	2,359
過年度法人税等戻入額	298	—
法 人 税 等 調 整 額	2,831	△ 1,068
中 間 純 利 益	3,008	2,223
前 期 繰 越 利 益	2,038	2,000
中 間 未 処 分 利 益	5,047	4,224

骨まで丸ごとシリーズ

好評発売中



今秋、水産カンパニーより、魚が丸ごと食べられる「骨まで丸ごと」シリーズが本格的に発売されました。

厚生労働省の国民栄養調査によりますと、多くの日本人に不足している栄養素としてカルシウムが挙げられています。この「骨まで丸ごと」シリーズでは、加圧加熱処理法と当社独自の技術により肉質を傷めず、骨だけをやわらかくすることができます。骨が気になるお子様からカルシウム不足の方々まで幅広くご利用いただける画期的な新商品となりました。

新聞、雑誌にも取り上げられ大変注目されており、当社グループ会社「株式会社まるいち加工」などで生産、初年度は10億円、3年後には50億円の販売をめざしています。



かわいいの竜田揚げ

商品概要

商品名	内容量（入数/g）	調理方法
かわいいの竜田揚げ	2切/160g	油で揚げる
さばの煮付け	1切（110g）×2	お湯で温める
さんまの竜田揚げ	250g	油で揚げる
さんまの照り煮	2切（110g）×2	お湯で温める

●価格：オープン価格
●発売地域：東京・大阪圏を中心に順次全国展開へ

ここが違う!!

骨まで丸ごとシリーズ

おいしさ5つのポイント

その1 魚の栄養を丸ごととれる！

骨まで丸ごと食べられるので、カルシウム、リン、そしてコラーゲンなどが丸ごと摂取できます。

その2 美味しい！食感もいい！

当社独自の技術により、身くずれもなく、魚本来の食感を実現しています。

その3 安全・安心！

圧力と熱で骨をやわらかくしていますので、安心してお召し上がりいただけます。

その4 調理の利便性！

油で揚げる、お湯で温めるだけのワンクックで簡単にお召し上がりいただけます。

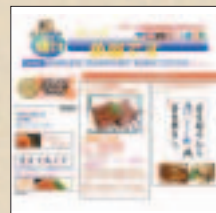
その5 環境に優しい！

骨を丸ごと食べられるため、捨てる部分が少なく環境に優しい商品です。

商品購入方法

楽天市場「ハイ魚屋です」からご購入できます。

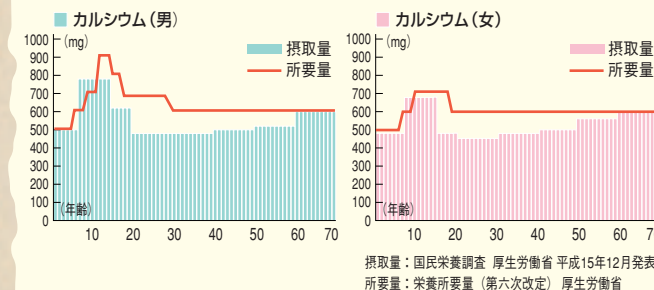
<http://www.rakuten.co.jp/hi-sakanaya>



「ハイ魚屋です」では、当社グループ会社「日新水産株式会社」が水産カンパニーの「素材にこだわった水産冷凍食品」を販売しています。おいしいシーフードを皆様の食卓にお届けいたします。

日本人は、慢性的なカルシウム不足！

カルシウム (Ca) 摂取量と所要量 (男女別)

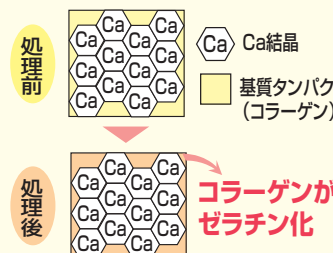


魚を「骨まで丸ごと」食べる！

加圧加熱処理法 + 独自技術

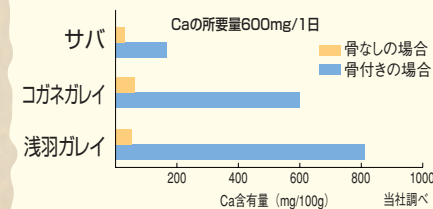
骨に含まれるCaを生かす！ + 身の食感や風味を活かす！

骨の模式図（拡大図）



「骨まで丸ごと」食べるとCaはこんなに摂れる！

可食部100gあたりのカルシウム含有量



「骨まで丸ごと」シリーズ

環境負荷低減に取り組む低温物流事業



㈱ロジスティクス・ネットワーク
杉戸物流センター外観
(2004年12月末完成予定)

屋根に取り付けられた太陽光発電設備



● 建築概要

所在地 埼玉県北葛飾郡杉戸町
敷地面積 49,587m²
建築面積 11,847m²
延床面積 23,294m²
構造・規模 鉄骨造2階建て（一部3階建て）

低温物流カンパニーは、食品を主体とする冷凍・冷蔵商品の「輸送・保管・流通加工・配送」という一連の物流サービスを提供しています。低温物流事業における主な環境負荷要因には、物流センターでの電力使用に由来する二酸化炭素（CO₂）の排出や冷媒としてのフロンの使用、低温輸配送業務の燃料使用とそれに伴う二酸化炭素排出等が挙げられます。

特に近年は、お客様のニーズの多様化を背景に低温施設の増強を進めてきており、電力使用量や冷媒使用量が増加傾向にあります。また、仕分・配送業務に必要な包装資材も増加傾向にあり、省エネルギー・廃棄物削減・リサイク

ルが重要な課題となっています。

環境負荷低減への取組みの一例として、地球温暖化防止対策では、エネルギーの有効利用により二酸化炭素排出量削減に取り組んでいます。オゾン層保護の活動では、一部施設で自然冷媒を採用し検証を進めています。廃棄物削減対策ではゼロエミッション（最終処分量ゼロ）の取組みを開始しました。

現在建設中の杉戸物流センターではクリーンエネルギーである太陽光発電や、自然冷媒を採用するなど様々なエコ対策を実施しています。



杉戸物流センターのエコ対策 … 環境負荷低減への取組み

CO₂削減量(トン/年)

● 地球温暖化防止

- (注) CO₂換算係数0.461kg-CO₂/kwh (2003年東京電力CO₂排出原単位)
- 太陽光発電設備（200kw）の採用（NEDO^{*1}フィールドテスト事業）…………… 92
 - 超高効率トランスの採用（従来型より変圧時の電力ロスを60%削減）…………… 37
 - インバータ蛍光灯の採用（従来型より電力使用量を30%削減）…………… 192
 - 自動調光照明の採用（自然採光や必要照度調整により電力使用量削減）…………… 7
 - 全熱交換器の採用（冷暖房時換気による熱ロスを低減）…………… 14
 - 輸配送業務に低公害車輦導入、エコドライブ推進

● オゾン層保護

- アンモニア冷媒と二酸化炭素を組み合わせた冷却システムの採用（自然冷媒でオゾン層破壊係数ゼロ）…………… 68

● 廃棄物削減

- 分別徹底・リサイクル推進による最終処分量低減

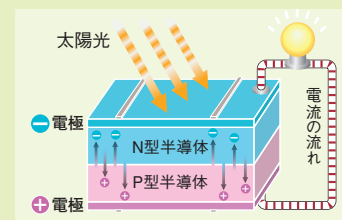
● グリーン購入推進

- 商品やサービスなどを購入する際に、できるだけ環境負荷の小さいものを優先的に購入する

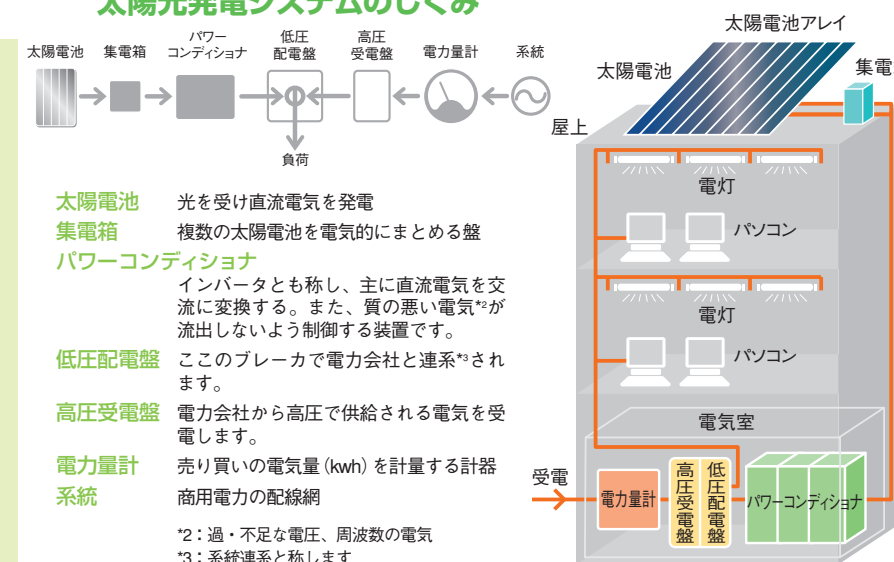
提示したエコ対策だけで年間410トンの二酸化炭素（CO₂）削減となり、これを森林のCO₂吸収能力で換算すると410,000m²（東京ドーム約9個分）です。

太陽光発電システムのしくみ

● 太陽電池とは



太陽電池はP型とN型の2つの半導体からできています。N型半導体には電子⁻が集まり、P型半導体には正孔⁺が集まる性質があります。この半導体に光があたると、光エネルギーを吸収して電子⁻と正孔⁺を発生し、電流が流れます。



Key Word

ニチレイならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介します。



りぼんシステム

お客様相談センターは、お客様の声に最初に接する部署として、皆様からの声に耳を傾け、その場で得られた貴重な情報を社内関係部署に発信しています。

この業務を強力にサポートするのが、当センターで活用しているシステム、通称「りぼんシステム」と呼ばれているものです。

「りぼんシステム」は2つの機能を備えています。1つは、当社で販売している商品（家庭用冷凍食品、常温食品、アセロラ商品など）の情報や販売店情報（ご希望の商品がどこで販売されているのか）を検索し、

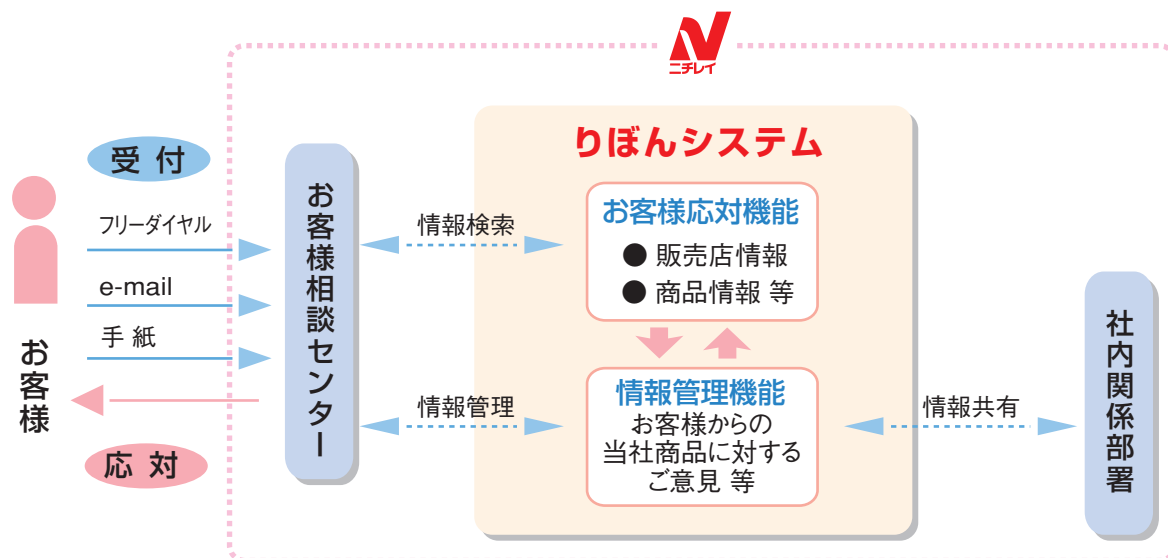
お客様からのご相談、お問合せに迅速に対応するためのお客様対応機能。もう1つは、お客様より得た貴重な情報（ご意見等）を管理し、社内関係部署で共有し、商品作りに活かすための情報管理機能です。

ニチレイは、この「りぼんシステム」を活用し、よりよい商品作りとおお客様の満足感向上に努めてまいります。



名前の由来

お客様相談センターに寄せられる皆様からのご意見は、『お客様からの贈り物である』という発想から、プレゼントにかけられるリボンをイメージして名づけられました。



Introduction

ご好評の商品をご紹介します。



Omiya ビーフピラフ

家庭用



バターの香り漂うビーフピラフに豊かなコクのきのこ入りハヤシソースをかけていただく、新しくも懐かしい味わいの逸品です。浅草の名店「レストラン大宮」の幻のメニューを再現しました。かすかに苦味がきいた味わい深いソースと香ばしいピラフとのハーモニーをお楽しみください。

わか家のごちそう 焼あげグラタン

家庭用



グラタンの決め手「ベシャメルソース※」は「東京・日本橋 たいめいけん」の茂出木シェフに監修いただきました。香り立ちのよいソースにこんがりチーズ、大き目カットのえびとチキンが入った贅沢なグラタンです。トースターでこんがり焼き上げてお召し上がりください。

※ベシャメルソース：ホワイトソースの一種。本品には芳醇なバターと小麦粉を、たっぷりの牛乳でじっくり練り上げたソースを使用しています。

お弁当にGood! グリルドチキンステーキ

家庭用



焼き目も香ばしく、冷めてもやわらかくジューシーな一口サイズのチキンステーキです。香り立ち豊かなグレービーソース※をからめました。赤パプリカとソースの照りがお弁当を華やかに彩ります。

※グレービーソース：肉汁を使ったソース。本品には鶏肉を焼いた後の肉汁にブイヨンを加えたソースを使用しています。

広東風 ふかひれスープ

家庭用



中華の名店「東京・新橋 新橋亭」の田中料理長に監修いただき、中華料理の一番だしともいえる『上湯』を使用して、より繊細で深みのある味にリニューアル。発売から今年で15周年を迎えた「ふかひれスープ」のまるやかでコクのあるおいしさをお楽しみください。

和の菜飯 かきご飯

業務用



旬のかきの香りと旨みが凝縮した、季節の和風ご飯です。具材はしっとり煮込んだかきの他、にんじん、しいたけ、ごぼう、油揚げ。昔ながらの炊き方で、ふっくらと艶やかなこだわりのご飯です。

厨房マイスター カレーソースベース

業務用



肉やシーフード、野菜など、どんな具材もひき立てる厨房での調理を考えた基本のカレーソースです。独自の配合で深みのある自然なコクを出しました。お好きな具材でお店ならではのカレー作りにお役立てください。

●株式の状況 (2004年9月30日現在)

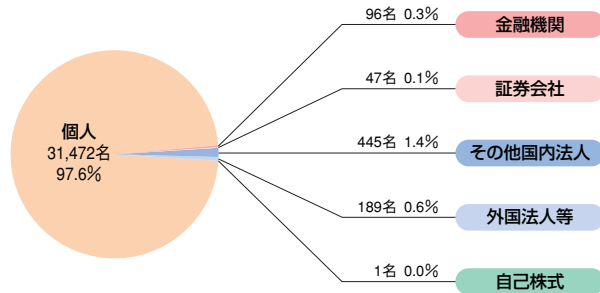
会社が発行する株式の総数 720,000,000株
発行済株式の総数 310,851,065株
1単元の株式数 1,000株
株主数 32,250名

●大株主

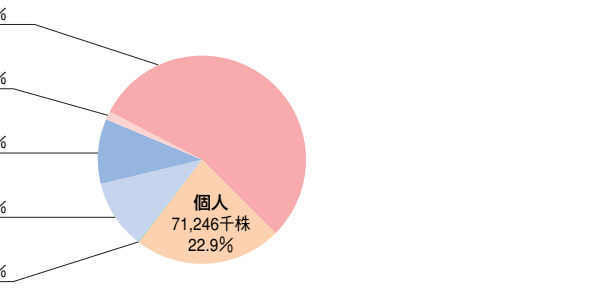
株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本トラスト・サービス信託銀行株式会社(信託口)	30,197	9.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,109	6.5
日本生命保険相互会社	16,785	5.4
株式会社UFJ銀行	12,446	4.0
株式会社損害保険ジャパン	12,059	3.9
みずほ信託退職給付信託 みずほコーポレート銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	8,056	2.6
株式会社みずほコーポレート銀行	7,315	2.4
第一生命保険相互会社	6,351	2.1
みずほ信託退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	5,598	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

●所有者別株主数分布状況



●所有者別株式数分布状況



●会社概要 (2004年9月30日現在)

社名 株式会社ニチレイ
所在地 東京都中央区築地六丁目19番20号
ニチレイ東銀座ビル

設立 1942年12月
従業員数 1,231名 (参考) ニチレイグループ 5,699名
役員

代表取締役	会長	大戸武元
代表取締役	社長	浦野光人
取締役	専務執行役員	横田浩二
取締役	専務執行役員	楡敏秀
取締役	常務執行役員	前嶋弘一
取締役	常務執行役員	秋山修利
取締役	常務執行役員	遠山昌幸
取締役	常務執行役員	千葉充裕
取締役	常務執行役員	荒昌裕
取締役	執行役員	椎橋治男
取締役	執行役員	相馬義比古
社外取締役		廣瀬光雄
常任監査役	(常勤)	後藤一彦
監査役	(常勤)	井上康之
社外監査役	(非常勤)	河上和雄
社外監査役	(非常勤)	佐藤正昭

執行役員	山本宏樹
執行役員	大塚恒博
執行役員	坂口哲
執行役員	長谷川寿
執行役員	荒剛史
執行役員	大平潤一
執行役員	青木敏夫
執行役員	柳本清昭
執行役員	永塚一昭
執行役員	河合義雄
執行役員	松本義明



本社

ホームページアドレス

<http://www.nichirei.co.jp>



事業紹介や投資家向け情報など、皆様のお役に立てる商品・サービス情報を掲載しています。
なお、トップページの画像は季節ごとに切り替わります。

支社

●北海道営業支社 〒060-0807 札幌市北区北7条西1-2-6
☎(011) 708-0791

●東北営業支社 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
☎(022) 711-2101

●関東営業支社 〒104-0044 東京都中央区明石町8-1
☎(03) 3524-1202

●中部営業支社 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
☎(052) 683-2551

●関西営業支社 〒530-0043 大阪市北区天満1-3-21
☎(06) 6357-2011

●九州営業支社 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
☎(092) 841-6700

会計監査人 新日本監査法人
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル